俳句

【小学1年生・2年生】

特　選　**おわったなうんどうかいもがんばった**

城東小学校2年　**奥井　ほとり**

（評）　練習をかさねたうんどうかい、そしてきょうは本番をやりとげた。いっしょうけんめいがんばると「おわったな」のことばがでるのです。「うんどうかいも」の「も」の字一つでそのまえのほかのこともがんばってきたことがわかるよい作品です。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

特　選　**赤とんぼしらない間にのぞいてる**

平田小学校2年　**藤本　莉愛**

（評）　「赤とんぼ」が秋の季語。「しらない」間にのぞいてる」と書き、とんぼという生き物をよくあらわすことができました。とんぼは大きな目をもち鳴きもしないで静かにやってきます。頭に止まることも。のぞかれている作者のやさしい気持ちも伝わってきます。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**どんぐりが木からぽろぽろおちてきた**

城北小学校2年　**中西　夏音**

（評）　「どんぐり」が秋の季語。木の実はみのるとしぜんに地におちてきます。木からどんぐりがおちてくるよい場面に出あいましたね。

「ぽろぽろおちてきた」とうまく表現できました。このような場面を『歳時記』では「木の実落つ」とか「木の実降る」といいます。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**さつまいもほいほいとれるたのしいな**

城東小学校2年　**池田　柚愛**

（評）　学校のいもばたけでしょうか。みんなで行くいもほりはうきうきしますね。そのうえ、大きく育ったさつまいもがほりおこされて出てくるのはほんとうにたのしい。「ほいほいとれる」とことばがはずんでいます。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　プールの日いろいろなわざやりたいな

稲枝西小学校2年　黒澤　直

（評）　夏になるとプールでの授業がはじまります。たのしみにまったプールの授業。水泳のとくいな作者をそうぞうします。「いろいろなわざやりたいな」というところから意気ごみがかんじられます。クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライなど。犬かきも？

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

佳作　ぶどうにはかぞくがいるよかわいいな

鳥居本小学校2年　大城　環希

佳作　おいしいなおばあちゃんのくりごはん

城東小学校2年　田辺　嘉音

佳作　うんどう会おうえん大しょううれしいな

城東小学校2年　柴田　輪九

佳作　すず虫がりんりりりんーとないたよ

城西小学校2年　村田　謙昌

佳作　カブトムシつのがつよいぞああいいな

城西小学校2年　辻　悠翔

佳作　どんぐりをすこしひろってひとやすみ

城北小学校2年　上坊　聖

入選　プールびらきもぐってういてたのしいな
稲枝西小学校2年　松井　煌心

入選　かっこいいつのでたたかうかぶと虫
稲枝西小学校2年　藤野　幹來

入選　コスモスがおんがくかいをやっている
鳥居本小学校2年　岸﨑　琴音

入選　こおろぎがはねをこすってたのしそう
鳥居本小学校2年　後藤　奏志

入選　もみじの木あかいはっぱがおちていく
城北小学校2年　柴田　萌衣

入選　いちょうがひらひらおどるおもしろい
城北小学校2年　市川　絵梨

入選　さつまいも早くでたいとまっている
城北小学校2年　大森　紗良

入選　かきのきにかきがいっぱいみのったよ
平田小学校2年　平石　優樹

入選　カマキリがかまを上げてたたかいます
平田小学校2年　村木　登羽

入選　かえりみちまっかにさいたひがんばな
稲枝東小学校1年　藤野　弥優

入選　赤とんぼ夕やけにしみさって行く
平田小学校2年　高田　颯矢

【小学3年生・4年生】

特　選　**まん月がきれいに見えるちゅう輪場**

城東小学校4年　**関　晴香**

（評）　自転車置場から家に帰るときのことでしょうか。まん月が特にきれいに見えたその夜の駐輪場には、まだ何台もの自転車が置かれ、それらの車輪も月の光にかがやいて見えます。

「まん月」と「ちゅう輪場」の言葉がひびきあいよい作品になりました。「まん月」が秋の季語です。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

特　選　**秋まつりわたがし買ったじんじゃ前**

城南小学校3年　**中野　里咲**

（評）　季語「秋まつり」は一年の収穫を神様に感謝する祭。神社ではお店も出てにぎわっているようです。綿をまきつけたようなあまい「わたがし」を買ったうれしさが感じられます。

「じんじゃ前」とはっきり場所を書いたのがよかったです。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

特　選　**ゆうきだしプールに入る一番目**

旭森小学校3年　**井上　太陽**

（評）　「プール」が夏の季語です。学校のプール開きの日のことでしょうか。一番最初に水の中に入るのは勇気のいること。見ているみんなも続いて入るのですが、作者は「ゆうきだし」とすなおな気持ちをことばであらわし、よい俳句になりました。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**さつまいもかぞくみたいにつながってる**

城東小学校４年　平井　未菜実

（評）　これはさつまいもほりをしたときの発見ですね。おとうさんいも、おかあさんいも、あかちゃんいもというように大きさのちがういもがぞろぞろと出てきます。さつまいもは根っこでつながっているのですね。よい作品です。「さつまいも」が秋の季語です。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**ついにきた何をしようか夏休み**

城北小学校４年　北村　郁人

（評）　夏休みをむかえたときのうれしい気持ちがすなおに言いあらわされてよい感じです。楽しみにまっていた夏休みですから「ついにきた」ということばもいきいきしています。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**かえりみちむらさきいろのあきのそら**

城東小学校３年　音田　菜々子

（評）　「むらさきいろのあきのそら」に出あったことを俳句にしてみた作者の気もちがすてきです。学校のかえりみちでも何かを発見すると、よい俳句が生まれます。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**どんぐりがころころ転がるこま回し**

城東小学校４年　伊吹　梓音

（評）　どんぐりの句はほかにもありましたが、この句はどんぐりで作ったこまのことだとわかりました。「こま回し」という場面を書くことでほかの人とはちがう作者だけの俳句ができました。それが大事です。「どんぐり」が秋の季語です。

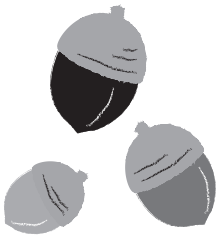
（彦根文芸協会　勝又　千恵子）

準特選　**ひがん花一列になりさいている**

若葉小学校３年　川西　こはる

（評）　秋の彼岸のころ、どてやあぜみちにとつぜんさき出す赤い花。それがひがん花です。かたまってさくことも、二、三本だけのこともありますが、作者は一列に整列している「ひがん花」をみつけました。運動会がそうぞうされたのかもしれません。

（彦根文芸協会　勝又　千恵子）



佳作　くものすに雨のしずくがきらきらと
稲枝東小学校3年　有田　凛音

佳作　雨あがり空にきれいな夏の虹
城南小学校4年　吉田　治旦

佳作　あきのよるびわこにうつるあかいつき
佐和山小学校4年　土田　萌瑛

佳作　おつきさまきんいろかがやくきれいだな
若葉小学校3年　田場　翔

佳作　いわし雲しずかに雲がながれゆく
若葉小学校3年　野村　優衣

佳作　サクサクとおちばふみふみ音がくたい
城東小学校3年　西村　桜空

佳作　くりごはん食べても食べてもくりの味
城東小学校3年　吉田　龍平

佳作　どんぐりはぼうしかぶったオシャレさん
城東小学校4年　陰平　奈緒美

佳作　春のゆめやきゅうせんしゅになりたいな
稲枝西小学校3年　佐々木　大我

佳作　ひまわりとせいくらべするせのびする
平田小学校3年　廣田　来海

佳作　なつやすみたのしすぎるがすぐおわる
佐和山小学校4年　田尾　哉芽

入選　虫の声おんがく会が始まるよ
城東小学校3年　溝口　心結

入選　しぶがきがあまいかきにだいへんしん
城東小学校3年　而澤　早紀

入選　くり三っつちくちくの中でねむってる
城東小学校4年　山田　桜空子

入選　どんぐりをシマリスさんが食べている
城東小学校4年　田中　奏哉

入選　朝ですよまだ起きないのたんぽぽは
城西小学校4年　川島　颯太

入選　びっくりだみのむしさんがおっこちた
城北小学校4年　北川　真衣

入選　虫の声家の庭から聞こえるよ
稲枝西小学校4年　福坂　珀斗

入選　大きな目どこ見て進む台風よ
稲枝東小学校4年　前田　織甫

入選　プールでねはやくおよぎをみせたいな
平田小学校3年　谷沢　翔

入選　まどを開けセミの鳴き声大合しょう
平田小学校3年　森谷　心結

入選　うんどう会がんばるダンス見てほしい
平田小学校3年　若杉　有沙

入選　夏休みいい日がつづく楽しいな
平田小学校3年　一円　美月

入選　さむくてもアイスクリームおいしいな
平田小学校3年　道田　優那

入選　台風めぼくの楽しみうばったな
平田小学校3年　池田　頼人

入選　あいさつをすればかえすよ虫の音が
平田小学校4年　境口　世梨花

入選　かまきりがえさをつかまえ食べている
平田小学校4年　益子　朋也

入選　おしょうがつまだかまだかなまどのぞく
平田小学校4年　井上　日和

入選　さつまいもほっていってもつちばかり
平田小学校4年　内野　雅也

入選　草や木の所どころに虫の声
城北小学校4年　馬場　大翔

入選　もみじがりかごいっぱいにあつめよう
平田小学校4年　澤田　みく

【小学5年生・6年生】

特　選　**母の指にばんそうこう栗ごはん**

稲枝東小学校6年　**中西　庸介**

（評）「栗ごはん」が秋の季語。食事どき、お母さんの指にばんそうこうがはられているのに気がつきました。お母さんが栗の皮をむく大変な作業を見ていた作者。おいしい栗ごはんを食べながら、お母さんへの感謝の思いが俳句になったのでしょう。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

特　選　**まん月が琵琶湖の中にもうひとつ**

城西小学校5年　**福永　涼太**

（評）おもしろいところを発見しました。琵琶湖近くに住んでいるのでしょうか。美しい十五夜の月を空に見て、目を移すと湖面にも大きな月がかがやいているのです。鏡のようですね。「琵琶湖の中」という大きな景色がよかったです。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

特　選　**夏野菜たくさん入れてさあカレー**

城西小学校5年　**徳永　明李**

（評）いつものカレーライスとはちがうものができあがったのですね。なすやトマトも加わったかもしれません。「さあカレー」というよびかけの言葉がいいですね。だれと作って、だれと食べたかを想像したくなります。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

特　選　**サイダーが私ののどにはじけだす**

河瀬小学校5年　**安田　絢音**

（評）「サイダー」が夏の季語です。夏の飲み物には「ソーダ水」「ラムネ」「氷水」などもあります。「私ののどにはじけだす」というところから、サイダーの清涼感と「私」の満足感が伝わります。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**赤とんぼ右へ左へとんでいる**

城北小学校5年　**榎本　結香**

（評）「赤とんぼ」が秋の季語です。とんぼという生きものの様子が「右へ左へとんでいる」と楽しく表現できました。特ちょうをとらえることはとても大事です。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**あじさいはちいさいはなをあつめてる**

若葉小学校5年　**権代　優紗**

（評）夏の季語である「あじさい」の花を見たときのすなおな気持ちが十七音にうまくまとめられました。大きなまりのようなあじさいは「小さいはなを」たくさんあつめてさいているという発見です。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**秋風が体のまわりを通りゆく**

城西小学校6年　**松下　歩夢**

（評）「秋風」とはどんな風でしょうか。ことばにあらわすとむずかしいけれど、作者は「体のまわりを通りゆく」と表現しました。自分で感じたことを自分のことばで書けています。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**そらのくもすっかりかわるあきのかぜ**

城北小学校5年　**山木　斗湧**

（評）そらを見上げると夏の雲とは「すっかりかわる」秋の雲が見えました。吹く風も秋を感じさせてくれましたという俳句です。身のまわりの季節の変化を敏感にとらえていてすばらしい。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**つきひかりさしこんでくるまどのおく**

城北小学校5年　**秋末　龍吾**

（評）「つき」は一年中見られますが俳句では秋の季語とされています。「つきひかり」とは「月光」のことですね。月の明るい夜は窓から部屋の中まで「さしこんでくる」とうまくあわらしました。「まどのおく」を「へやのなか」としてもいいですね。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**あせのたき組体そうで流れてる**

城陽小学校5年　**川﨑　彩那**

（評）上級生になると組体そうをするのですね。がんばる様子が「あせのたき」「流れてる」でわかります。「あせ」は夏の季語です。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**ひがんばなしらぬあいだにきえていく**

稲枝東小学校6年　西澤　波音

（評）「ひがんばな」が秋の季語です。秋の彼岸のころ、まっすぐな茎に炎のような赤い花をさかせますが、やがて花もしおれるとその場所さえ忘れられてしまいます。「しらぬあいだにきえていく」と「ひがんばな」の様子がうまく書けました。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

準特選　**徒競走走れば当たる夏の風**

平田小学校5年　木村　羽玖

（評）「夏の風」が季語です。夏は南から風がふくことが多いので「南風（みなみかぜ）」という季語もあります。「走れば当たる」ということばからは、さわやかな心地よい風を切って走るすがたが見えてきます。

（彦根文芸協会　勝又　千惠子）

佳作　**せんぷうきみんなのつかれなくなるぞ**

城東小学校5年　上原　有乃

佳作　**梅雨きのこじめじめしたらはえてくる**

城西小学校6年　中村　心春

佳作　**ぬけがらはせみのくんしょうかっこいい**

旭森小学校5年　井上　璃子

佳作　**秋の風わらのにおいがここちいい**

金城小学校5年　田井中　結衣

佳作　**秋の風いろんな種を運んでる**

鳥居本小学校5年　岩崎　来羽

佳作　**夏休み夜の学校きもだめし**

鳥居本小学校5年　小野　陽暖

佳作　耳すませ聞こえてくるよ虫の声
鳥居本小学校5年　畑　千尋

佳作　すいか割りしじされ前へぼうをふる
鳥居本小学校5年　右川　翔梧

佳作　虫の音にさそわれ歩く玄宮園
旭森小学校5年　宮川　杏弥

佳作　あきのくさくもをえがくふでのよう
鳥居本養護学校　小学部6年　匿名

佳作　わたりどりブイ字になって空泳ぐ
若葉小学校5年　綿谷　悠斗

佳作　ゆうだちのあとはきれいなよぞらだよ
若葉小学校5年　田場　諒

佳作　ポケットにそっとしのばすキンモクセイ
城東小学校5年　梅形　紗良

佳作　さんぽみちかぜにゆれてるすすきのほ
城東小学校5年　平野　昊

佳作　ゆきだるまころころころがしつくり出す
城東小学校6年　東光　大和

佳作　朝起きてキンモクセイのいい香り
城西小学校6年　坂本　ひなた

佳作　りっしゅんをすぎたけれどもきづかない
城北小学校6年　林　奏向柊

佳作　月明かり夜道をやさしく照らしてる
城北小学校6年　冨田　直希

佳作　ちってゆくもみじをひろうやまくだり
稲枝東小学校6年　山口　智生

佳作　夏の川きらきらきらきらとわらってる
高宮小学校5年　沖野　依緒奈

入選　夕焼けのグラデーションも秋めいて
城東小学校5年　藤田　あかり

入選　大じいちゃんにじをわたれば会えるかな
城東小学校5年　山田　亜美

入選　声からしみんなで応えん運動会
城東小学校6年　森　このか

入選　すみっこでたんぽぽたちが笑っている
城西小学校5年　青山　ユキ乃

入選　習いごと終わってみれば満月だ
城西小学校5年　吉田　創希

入選　外でるときんもくせいのいい香り
城東小学校5年　池田　杜愛

入選　落葉ふむ玄宮園に夕の鐘
城東小学校5年　手塚　大圓

入選　なつやすみ最後の一日宿題日
城西小学校5年　北村　天音

入選　くらやみで光りかがやくせんこう花火
城西小学校5年　藤田　華子

入選　炎天下ホームラン決めてハイタッチ
城西小学校5年　門野　澪志

入選　赤色に川そめてゆくもみじかな
城西小学校6年　大谷　将武

入選　見たいなあ炎のような紅葉を
稲枝東小学校6年　廣田　慶次郎

入選　父さんのビールの相棒枝豆です
稲枝東小学校6年　上田　蓮人

入選　秋風をあびてすうっと深呼吸
稲枝東小学校6年　中邨　圭汰

入選　また来たなきょねんとおなじ台風が
稲枝東小学校6年　竹井　信一郎

入選　組体操みんなで協力運動会
稲枝東小学校6年　森　一姫

入選　夜そとにでるとすずむし音楽会
城陽小学校5年　西村　紗羽

入選　たいふうの玉子はぜったいいりません
旭森小学校5年　村地　昭摩

入選　うんどう会第一走者走りぬけ
平田小学校5年　廣田　紗梨

入選　ハロウィンでみんなで仮装たのしいな
平田小学校6年　三輪　明璃

入選　夏まつりやたいがたくさんたのしいな
平田小学校6年　野中　瞭

入選　運動会いたいのがまん組み体そう
平田小学校5年　若杉　駿介

入選　秋刀魚やくそのにおいまでおいしそう
平田小学校5年　田中　蒼真

【中学生】

特　選　**春が来た合格通知の一文で**

稲枝中学校3年　**門野　藍翔**

（評）　臨場感あふれる一句です。「合格」という報せの一語でほんとうに春が来たという気持ちになっています。うまくまとめあげましたね。佳句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

特　選　**桜咲き次への一歩踏み出して**

稲枝中学校3年　**本持　心愛**

（評）　桜が咲き出した。次への一歩は何でしょう。読み手に色々な事を想像させるものがあります。進学に、スポーツにと、作者は何かを考えていることと思います。一歩一歩確実に進まれることと思います。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

特　選　**夏休み最後の試合いい試合**

稲枝中学校3年　**辻　拓巳**

（評）　夏休み最後の試合、来年は卒業してもういない。最後と思うと自然に力が入って来ます。結果は詠まず「いい試合」と結んでいるところをみると感動の余韻にひたっている感が、一句の中から読みとれます。佳句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

特　選　**夕焼に照らされできるおおきな影**

南中学校1年　**谷本　風結**

（評）　良いところに気づきましたね。夕焼けを背（せな）に負（お）ったとき、自分の影が大きく地面に映っている。その様子を作者はいち早く一句に仕上げました。拍手を送ります。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

特　選　**あと少しゴールの先に虹の橋**

彦根中学校1年　**大竹　琉唯**

（評）　競技中の作者。ゴールを目前にして、ふと見るとその先に虹がかかっている。優勝を祝福しているかのようです。作者は詩人ですね。疲れもどこかへ飛んで行ったのではないでしょうか。それにしてもよく虹をみつけましたね。佳句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**まっしろにそまったまちにゆきだるま**

稲枝中学校3年　森　花菜

（評）　雪が降って街の景色が白くなった。そこに誰かが作った「雪だるま」が置かれている。それに気付いた作者。街の景色にとけこんでいる雪だるま。法師を想像させる一句です。光景が目に浮かんで来ます。佳句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**渡り鳥黒い点字が動いてる**

稲枝中学校3年　塚本　七菜

（評）　「渡り鳥」は繁殖地と越冬地を異にし、毎年定まった季節に移動をくり返す鳥類のことです。四季によって、「夏鳥」「冬鳥」「旅鳥」と表現が変化します。遠くに渡り鳥を見つけた作者。それが点字に見えたという新しい発見ですね。「点字が動いてる」という良いところに目をつけましたね。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**朝起きて季節感じる白い息**

南中学校1年　山口　華

（評）　起床して、ふともらした言葉が白い息になった。あたたかい布団の中では感じなかったが、言葉を口にする度に白い息がついて来る。繊細な感覚の持ち主であることが判ります。佳句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**日傘さす母の影追い遊んでる**

南中学校1年　堀田　真瑚

（評）　日傘をさすお母さん。その影を追う子どもの光景を写生した一句でしょうか。「日傘」がよく利いています。母と子の一風景が目に浮かんで来ます。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**勉強をやめて窓から見る花火**

南中学校1年　北川　衣久実

（評）　机にむかって猛勉強中の作者。日が落ちて辺（あた）りが暗くなって来た。花火の夜だ。ペンを置いた作者は窓から花火を見ることにした。うまくその夜のことをまとめましたね。花火が終わったあと、また机に向かっているという充実感のあふれる一句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**雪が解け小さな命めをさます**

南中学校1年　ゴッドバン　愛衣矢

（評）　雪が解けて目をさますのは何でしょう。それは自然の草木かも知れない。作者自身の事かも知れない。雪解けと共に自分も大きく飛躍しなければと思っているのかも知れません。何かを秘めている一句ですね。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**風鈴が隣の家から鳴っている**

南中学校1年　**笹原　麻鈴**

（評）　勉強か読書に耽（ふけ）っているとき、隣の家からちりんちりんと風鈴の音が聞こえて来て、しばし音色を聞いている作者。しばしの休憩も大事です。風鈴の音を聞きながら次へのステップを踏むのでしょう。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**秋うらら友と歩いた中山道**

彦根中学校1年　**圓城　惺也**

（評）　秋の陽気に誘われて中山道を歩いた。近くでは柏原の宿（しゅく）から鳥居本、高宮を経て愛知川へと続いている昔の道です。何を語っていたかは言っていないが友達は大切です。将来は「竹馬の友」となるかも知れません。佳句に仕上げましたね。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**友達と歩いた先に秋の虹**

彦根中学校1年　**平井　優里花**

（評）　友達は大切です。心を分かつ友と、今のことやこれからのこと、勉強のことなどと話は続く。ふと先を見ると秋の虹がかかっている。二人にとって幸運な報せかも知れません。終生忘れ得ぬ景色かも知れませんね。佳句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

準特選　**ここだよと呼ぶ香の君は金木犀**

中央中学校1年　**髙橋　理企**

（評）　秋になり街中（まちなか）を歩いていた作者。どこからとなく良い香りが漂う。それは金木犀であることに気付く。作者は金木犀を擬人化して「君の名」と詠んでいます。詩人ですね。金木犀の香りが作品から伝わって来る一句です。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）

佳作　やわらかなかぜが吹いてる菜のはな畑
稲枝中学校3年　川瀬　瑞葵

佳作　枯れ葉見て季節変わりを知った今
稲枝中学校3年　宮路　晃

佳作　暖房がそろそろほしい季節かな
稲枝中学校3年　吉田　真生

佳作　クリスマスサンタが通る光る街
南中学校1年　大久保　伊緒理

佳作　園庭でどんぐりひろい母を待つ
南中学校1年　藤野　束咲

佳作　おいしいなくりをつかったははのあじ
南中学校1年　大石　佳音

佳作　秋の風肌にひんやりしみていく
南中学校1年　山﨑　遥太

佳作　にほんふうてらにひろがるこうようだ
南中学校1年　富永　敦大

佳作　さつまいも私の気持ちおどらせる
鳥居本養護学校　中学部1年　匿名

佳作　駅降りて一面に広がる彼岸花
彦根中学校1年　谷　悠哉

佳作　ふと見たら虹がかかるよ空いっぱい
彦根中学校1年　今井　瑛姫

佳作　目をとじて聴いてみようよ秋の風
彦根中学校1年　小川　真輝

佳作　不安定私の意志と秋の空
彦根中学校3年　馬場　優月

佳作　美しき宙を舞い散るもみじの葉
彦根中学校3年　増田　悠人

佳作　あかとんぼいけのまわりにとんでいる
西中学校1年　森野　蓮華

佳作　しとしとと秋雨のふる帰り道
西中学校2年　前川　悠真

佳作　ドアを開け五感で感じる秋の風
西中学校2年　中久木　大祐

佳作　ひっそりと火種のような彼岸花
西中学校3年　高松　悠斗

佳作　雲光り天地に響くかみなりか
中央中学校1年　太田　在登

佳作　運動会奇跡をおこした組体操
中央中学校1年　山﨑　友翔

入選　木下闇心落ちつくいこいの場
稲枝中学校3年　楠居　大輝

入選　だいプールわいわいさけぶ子どもたち
南中学校1年　岡田　瑛翔

入選　見上げれば夕日にうつるうろこ雲
南中学校1年　尾﨑　立之介

入選　どんぐりが山からコロコロ落ちてくる
南中学校1年　中川　穂乃

入選　大量に祖母から送られくり食べる
南中学校1年　岩津　明日笑

入選　遠足は疲れたけれど楽しいな
彦根中学校1年　若林　将汰

入選　力つき空を見上げた虹の道
彦根中学校1年　榎木　悠人

入選　雨が止みふと見上げれば虹架かる
彦根中学校1年　岩崎　希望

入選　まぶしいな一面黄色いちょうの葉
彦根中学校3年　平野　優芽

入選　受験生勉強だらけの冬休み
彦根中学校3年　山口　光陽

入選　今日は晴れ明日は雨かないわし雲
鳥居本中学校2年　右川　楓也

入選　紅葉が空と心を埋め尽くす
鳥居本中学校2年　寺村　拓海

入選　しんしんとふりつもる雪美しい
西中学校1年　房野　ななみ

入選　もみじの木夕日に染まり色付ける
西中学校1年　及川　娃生

入選　夜桜の後ろで光る彦根城
西中学校2年　太田　瑠愛

入選　雪が解け別れの時がやってくる
西中学校3年　山口　栞利

入選　琵琶湖畔映し出される月と城
西中学校3年　西田　蒼彩

入選　黄金の輝き放つすすきかな
西中学校3年　中山　真尋

入選　五月雨や鳴き声映す水たまり
西中学校3年　藤田　知世

入選　桜咲く夢への道へ第一歩
西中学校3年　大森　陽貴

入選　あまい香にさそわれ先にきんもくせい
西中学校3年　中川　奈保

入選　手が真っ赤ホッカホカなやきいもを
中央中学校1年　森谷　純礼

入選　石焼きいも車追いかけほほ赤く
中央中学校1年　吉田　詩歩

入選　くりひろいひろったくりでくりごはん
中央中学校1年　佐々木　恭正

入選

懸命に未来へ羽ばたく燕の子

中央中学校1年　西浦　一歩

【総評】

応募されたたくさんの作品を時間をかけて拝見しました。

俳句には色々と約束ごとがあります。一句の中に季語という大事な語を入れなければなりません。

また、「や」「かな」といった切れ字を二つ使っても駄目です。

俳句をより深く学ぶには、「歳時記」という俳句の季題を分類し解説を加え、例句を載せた参考書をぜひ手元においてほしいと思います。見せてもらった句の中には季語が二つ三つある句があり、また全く季語の無い句もありました。

さらに、自然の景色に目を向けることも大事です。日本の自然の景色はすばらしいです。自然を通じて身近に感じたことをメモしておくことも大切です。十七文字にならなくても書き留めておくと、何日か後になって、それで名句が作れることもあります。たくさん作ってたくさん捨てることから、よい句は生まれます。

日頃から、新聞や本をよく読む習慣をつけることで知識が広まり深まるのだと思います。

精進されることを願ってやみません。

（彦根文芸協会　野瀬　章子）